

あおもり 国際交流つうしん

AOMORI
international exchange
communication paper

国際交流情報誌

2021

No.141

今年度の青森県国際交流協会の取組み

「交流型日本語教室を起点としたコミュニケーション支援業務」

「青森県日本語指導サポーター養成講座」

今年度、青森県国際交流協会は青森県から委託を受け「交流型日本語教室を起点としたコミュニケーション支援業務」の運営を開始します。これは、開催する自治体と地域住民がともに学び交流する機会を提供し、外国人が地域と共生して安心して暮らせる街づくりをはかるための教室です。

日本語教室の準備から支援方法などコーディネーターとともに、それぞれの地域に沿った日本語教室を展開していきます。日本語指導サポーターの方々が活躍できる実践の場ともなっています。今年度は、青森市、弘前市、三沢市、中泊町で開催します。

また当協会は青森大学と連携し、2019年度より「青森県日本語指導サポーター養成講座」を開始しました。

この講座は、3年間で100名の「青森県日本語指導サポーター」登録を目標に行われ、今年度はその最終年度となります。日本語教育支援や多文化共生に興味がある方を対象に、日本語を教えるための基礎的な知識や授業準備方法、教え方の技術などについて学ぶことができます。

講座を修了しサポーターとして登録された人たちの活動の一例は、次のようなものがあげられます。

- ・既存の地域日本語教室での日本語支援
- ・日本語指導の必要な外国につながる児童生徒への学校での日本語支援
- ・交流型日本語教室開設への準備協力 など。



5月15日に開始した「青森県日本語指導サポーター養成講座」の様子

青森県国際交流協会が主催する「交流型日本語教室」の案内

にほんご

「にほんご」で、そういえばいいの〜
「にほんご」で、さあ〜
「にほんご」で、さあ〜

1. 日 時：6月23日（水）10:00～11:30
2. 場 所：日本語コミュニケーション、横濱立待町
3. 場 所：弘前市 弘前市立大ホール
4. 参加費：無料
5. 参加者：日本語を習得したい人、日本の文化を知りたい人

※参加費は、お金の支払いを必要とします。
※32歳以上の年齢で、日本語がよくない人は参加できません。
※参加費は、お金の支払いを必要とします。変更する場合があります。

お問い合わせ先：青森県国際交流協会 TEL: 017-734-9285
FAX: 017-735-2221

この日本語教室は、青森県に在住している外国人に対して、日本語学習の機会と地域住民との交流の場を提供し、地域の一員として、日本語を習得する外国人と地域住民とがともに生活できるように支援するものです。

主催：（公財）青森県国際交流協会 共催：青森市

青森市で開催される
「交流型にほんご教室」のチラシ

青森県外国人相談窓口についてのお知らせ

今年度から、新たにタガログ語担当の相談員が加わり、青森県外国人相談窓口の体制が新しくなりました。

① 対応言語・曜日・時間

対応言語	対応曜日	対応時間
日本語 / Japanese	火～土曜日 Tuesday～Saturday	10:00～17:00
英語 / English	火・水・木・土曜日 Tuesday, Wednesday Thursday and Saturday	10:00～14:00
中国語 / Chinese	水・金曜日 Wednesday and Friday	
ベトナム語 / Vietnamese	火曜日 / Tuesday	
フィリピン語 / Tagalog	木曜日 / Thursday	
インドネシア語 / Indonesian	事前予約が必要です	

② 休 日……毎週日曜日と月曜日は休みです。アスパム休館日も休みになります。

③ 相談の受付は……相談は、アスパム2F国際交流ラウンジ窓口、電話やメールのほか、SNS（Facebook、WeChat、WhatsApp）でも受け付けます。

相談者、関連機関等、当協会通訳相談員間の三者通話での対応もしております。



皆さまのご利用を
お待ちしております

青森県外国人相談窓口「ワンストップ相談会」今後の開催予定

青森県在住の外国人を対象に、在留資格、職場の問題、法律問題などの専門家が相談に応じます。相談にあたっては当協会の通訳相談員が同席し、スムーズな相談に努めます。

日時：2021年10月31日（日）13:00～16:00

2022年 2月19日（土）13:00～16:00

場所：アスパム5階 会議室「白鳥」「夏鳥」

専門相談機関：青森県弁護士会、仙台出入国在留管理局青森出張所、青森労働局監督課、青森県行政書士会、青森県司法書士会、青森県社会保険労務士会 等

*相談は、事前予約をお願いします。

くわしくは青森県国際交流協会のホームページをご覧ください。

2020年度（令和2年度）青森県外国人相談の状況

青森県外国人相談窓口の2020年度（令和2年度）の相談状況をお知らせします。

青森県の在留外国人は、2020年12月末時点で6,165人でした。青森県総人口の約0.5%を占めます。

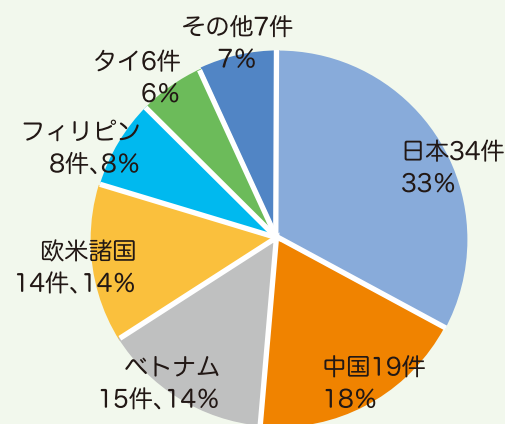
当窓口への外国人相談件数は103件でした。

国籍別にみると、日本人から寄せられた外国人に関する相談が最も多く、次いで、中国、ベトナム、欧米諸国、フィリピン、タイなどとなっています。

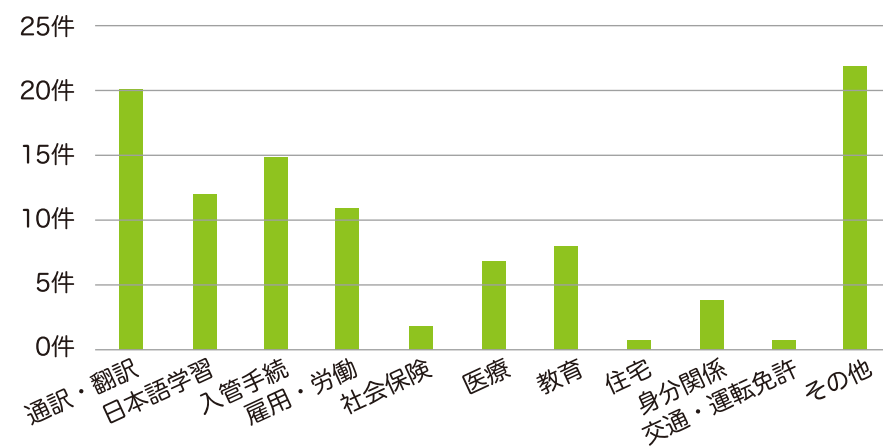
内容別では「通訳・翻訳」が最も多く、行政など各機関からは、ベトナム語やタイ語など多様な言語の通訳依頼がありました。次いで「入管手続き」に関する相談が多くありました。

また特に増えたものは、「子どもの教育」に関する相談です。これまでは把握されていなかった子どもたちの就学に関する相談やその手続きや準備、言葉の問題など内容は多岐にわたり、行政機関につなぐケースが増えています。

青森県外国人相談 国籍別相談件数



青森県外国人相談 内容別相談件数



相談言語では日本語が最も多く、次いで中国語、英語となっています。

当相談窓口は今年で開設から3年目を迎え、徐々に相談も増えてきましたが、相談件数は他県と比較するとまだまだ少なく、実際は様々な問題がありながら、それらが顕在化していないだけだと分析しています。

相談が必要な人にしっかり情報が届けられるよう、アクセスのしやすさなどをさらに工夫する必要を感じています。今年度から相談言語は、英語、中国語、ベトナム語に加え、タガログ語でも対応ができるようになりました。皆さまのお知り合いの外国人の方にも、ぜひ当相談窓口のことをお知らせください。

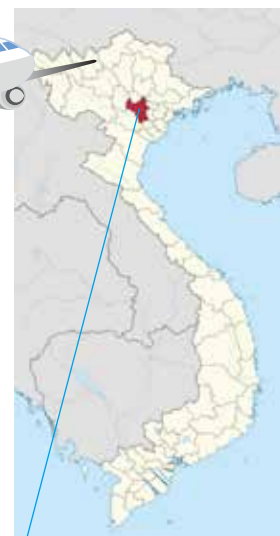
これからも専門の関係機関と連携して、できるだけ解決につなげられるようお手伝いします。お気軽に相談窓口にご連絡くださるようお願いいたします。

青森から世界へ JICA 海外協力隊活動報告

先日、青年海外協力隊としてベトナムで活動をしていた、おいらせ町出身の種市香織さんにインタビューをする機会がありました。

種市さんはJICA海外協力隊として、2014年から2016年までアフリカのルワンダへ、そして2019年から2021年まで現地の観光をテーマに活動してきました。新型コロナウイルス感染の影響から2020年3月、緊急帰国をしましたが、同年11月に再度ベトナムに赴き活動を続けています。今回は、種市さんがなぜ海外への道を進んだのかインタビューの内容をお届けします。

(インタビュアー：JICA青森デスク 阿部翔太)



種市さんが現在活動している
ベトナムのハノイ市

海外に興味を持ったきっかけ

——海外に興味を持ったきっかけは、何ですか？

種市：きっかけとなったのは、初めての海外旅行です。スペインに行きました。

——スペインですか、どうしてスペインに行ったんですか。

種市：友人がスペインに住んでいて、地元企業で働いていました。興味本位で語学学校に行ってみたところ、大きな経験をしました。

——どんな経験ですか？

種市：私は、最初、スペイン語を全く知らなかったんです。学校では、大学進学前の各地の高校生と一緒にスペイン語を勉強したんですが、全く自分のことを表現できず挫折を味わいました。一方で、高校生達は自分自身の意見を堂々と周りの人たちに伝えている。衝撃を受けました。「私は今まで何をしてきたのか…自分の意見も言うことができない」と。この時に初めて自分の弱さを知り、その弱さと向き合うことができました。

そして「成長」を求めて、JICA海外協力隊への参加を決めました。

ベトナムでの活動や、印象、困ったことなど

——JICA海外協力隊としてベトナムでは、どんな仕事をしましたか？ ベトナムの印象は？

種市：ベトナムでは、自身の専門である観光資源の開発や人材育成を目的に活動しました。ベトナムに渡ったときの印象は「日本と似ている」と思ったこと。海外協力隊として初めて活動したのは、アフリカのルワンダでしたが、そことは大きく異なった素晴らしい環境でした。

——ベトナムで困ったことはありませんでしたか？

種市：良い環境で活動できましたが、それでも言葉には困りました。現地へ派遣される前に、国内で約1カ月間の語学研修を受けたんですが、現地での会話のスピードは全く違いましたし、私自身の発音などが活動に影響したこともありました。



旅行会社の新規ツアー開拓に同行し
サポートをしているところ

VIETNAM



(左) 配属先であるサム山文化遺跡観光地管理委員会の同僚や、ホテル従業員に日本語を教えているところ
(右) 観光業者へアンケート調査の結果をフィードバックし意見交換をしているところ



新型コロナウイルスの影響により途中帰国、そして新たな道へ

——ベトナムでも新型コロナウイルス感染の影響はありましたか？

種市：現地の現状調査やベトナム語にもだいたい慣れてきて、活動を発展させるタイミングだったんですが、2020年3月に緊急帰国を余儀なくされました。

——帰国してからは、どんなことをしていましたか？

種市：ベトナム語の勉強や、ボランティアでオンライン日本語教室を手伝っていました。でも、11月に再びベトナムに戻ることができ、観光を通じた国際協力に従事することになりました。

種市さんはベトナムでの任期を満了後、帰国しましたが、これまでの現地での活動を評価され2021年5月、新たな任務で再びベトナムへ赴きました。ハノイ市のJICA（国際協力機構）ベトナム事務所に勤務し、「草の根技術協力事業」をはじめとする市民参加事業に携わります。海外協力隊としての小さな活動から国全体を支援する活動へと飛躍したのも、自身が持つ人生の指針が大きく影響していると語りました。

初めての海外語学留学で経験した挫折から、自身の成長を指針にキャリアを築く種市さんの生き方から学ぶことは多いのではないかと思います。

JICA青森デスクからのお知らせ

JICA国際協力高校生・中学生エッセイコンテスト 2021 ～言葉にすれば、世界を動かす力になる。

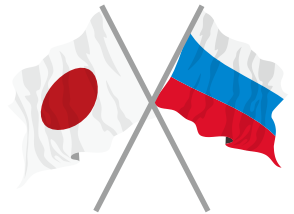
今回のテーマ「私たちと地球の新しい未来」

このコンテストは、中学生・高校生を対象に国際社会の中で日本、そして自分たち一人一人がどのように行動すべきかを考えていただく機会を提供する事業です。今回のテーマを通じて自分たちのよりよい未来をつくるにはどのような課題があり、どんなことが求められるかを考え、そして行動するきっかけをつかんでいただきたいと思います。

募集期間 2021年6月7日(月)～2021年9月11日(土) ※当日消印有効

◎くわしくはこちらまで 地球ひろばHP「募集案内」

<https://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/essay/collect/index.html>



青森県とロシアの交流の歴史①

あまりよく知られてはいませんが、青森県とロシアには長い交流の歴史があります。本稿では当協会理事の工藤朝彦氏が膨大な資料や研究をもとに著した「青森とロシアの交流史」を、江戸、明治～大正、昭和、平成～令和と時代ごとにダイジェスト版で紹介します。

今回は江戸時代における交流の歴史をお届けします。



江戸時代における青森県とロシアの交流は、1744年（延享元年）11月、下北郡佐井村の商人である竹内徳兵衛が新造船「多賀丸」に水主17名とともに江戸向け出航したことに始まる。船には大豆や昆布、魚粕などを満載していた。ところが折からの南風に遭い漂流すること数か月、船は翌年5月、千島のオンネコタン島に漂着した。

漂流中に水主7名が死に、その後、竹内徳兵衛も同島で死亡した。生き残った水主10名はカムチャッカのポシエリックに連行された。1754年、イルクーツクに日本語学校が開校された。水主たちは同市に移住し日本語教師として働いた。彼らの多くは現地の女性と結婚したらしい。のちに二世の一人トラペズニコフは1792年、第1回ロシア使節団の通訳として来日した。別の二世であるアンドレイ・タターリノフは露和辞典を編纂し18世紀の北奥方言の貴重な資料を提供した。これは旧ソ連科学アカデミーに保管されているレクシコン（露和語彙集）で、ロシアに入った最初の日本の言葉のひとつであるとロシアの学会では言われている。

佐井村出身者たちがイルクーツクの日本語学校で働いていたころ、1772年にシベリア調査のため同地を訪れていたドイツの学者ゲオルギは、彼らと親しく交わり日本に関する情報を得ていた。この情報は1775年、ペテルブルグで発行された「1772年のロシア国旅行記」に発表された。同書には佐井村出身者たちの遭難と漂流の様子やその後の経緯とともに、「日本に関する簡単な報告」が述べられている。かなりの誇張や誤解もあるようだが、当時の南部藩の状況を忠実に伝えている部分も少なくない。

一方、弘前藩には17世紀から明治時代の初めにかけて「早道之者」という忍びの集団がいた。この集団はシャクシャインの戦いで侍大将として謀報活動に従事し、アイヌ民族の動向を監視することを主な任務としていた。当時、日本は鎖国下にあったがロシアが蝦夷地に来航し始めると、その警備のために早道之者が動員されたという。

ロシアでは20世紀になると、徐々に忍者の研究が行われるようになった。研究者の一人として、1899年ウラジオストクで生まれた朝鮮系ロシア人（高麗人）のロマン・キムがあげられる。キムは7歳で日本へ留学し少年期を過ごした。のちに来日時の経験をもとにした著書で日本の文化や歴史、忍者や忍術に関する詳細な記述を残し、世界的に見ても最も早い海外での忍者研究と言われる。

新型コロナのワクチン接種が始まった。また、歴史的にワクチン（種痘）で天然痘は撲滅した。江戸時代の青森県とロシアの交流史を語るうえで、ロシア仕込みの種痘（牛痘）の技法を実践した下北郡川内町（現むつ市）出身の中川五郎治（明和5年=1768年～弘化5年=1848年）の活躍は欠くことができない。

中川五郎治は、蝦夷地択捉島の漁場の番人を務めていたが、文化4年（1807）年4月、日本に通商を求めたロシア使節ニコライ・レザノフの部下のニコライ・フヴォストフに番屋を襲撃され（文化露寇）、捕虜としてシベリアに連行された。その間の経緯は息を継がせぬものがあるが、五郎治は文化9年オホーツクで種痘書を手し、医師の助手となり種痘法を習得した。のちに日本に帰還すると松前奉行・松前藩に仕え箱館・松前を中心に種痘法を広め、日本における種痘法の祖と言われる。中川五郎治の生涯は多くの歴史書や吉村昭の小説「北天の星」で描かれている。

青森県国際交流協会のホームページを一新しました！

2021年度から、当協会ホームページを一新しました。新しいホームページは、パソコンはもちろん、スマートフォンの画面でも見やすい構成にしました。掲載情報は「青森県外国人相談窓口」、「多文化共生の推進」をメインとしました。「外国人のための生活情報では、「日常生活」（緊急時の対応、運転免許証など）や、「在留カードの手続き」のほか、育児・教育に関する基本的な情報、「青森ならではの情報」として、雪国の暮らしに関することなどを掲載しました。

国際交流活動団体の方に向けて、イベント主催時の入力フォームも新しいものにしました。皆さまの活動をよりアピールできるものにしました。ホームページの「お問い合わせ」→「イベント掲載依頼」から入力ができます。これからも皆さまのご要望にお応えしながら、さらに内容の充実を図っていきます。

当協会ホームページQRコード→



青森県国際交流協会からのお知らせ

Japan Times 読んでみませんか？

英字新聞「Japan times」のバックナンバーをお分けしています。3か月ほど前の日付の新聞を10部前後まで差し上げます。

なお新聞の使用目的は、語学学習やボランティア活動での教材などに限らせていただいております。ご希望の方は事前に青森県国際交流ラウンジまで、お電話かメール、ファクスでご連絡ください。

電話：017-718-5147
FAX：017-718-5148
メール：lounge_supporter@kokusai-koryu.jp

お詫び

今号から掲載を予定していた「知っていますか？イスラム教（仮題）」は、次号つうしんNo.142から掲載します。ここで、クイズをひとつ。



イスラム文化を象徴する色は、次のうちどれでしょう。

- ①赤 ②白 ③青 ④金 ⑤緑 ⑥黒 ⑦紫

答えは、次号で。

◆国際交流団体の活動紹介（2021年7月から9月）

●弘前日本語クラブ 【9月からの活動についてのお知らせ】

当クラブは、弘前市近郊に住む日本語学習者のサポートや国際交流を目的に活動しています。

9月から12月までの、2021年後期の活動内容をお知らせします。

	試験対策クラス	試験対策クラス
期 間	後期 2021年 9月～12月	後期 2021年 9月～12月
時 間	毎週火曜日 19:00～21:00	毎週木曜日 19:00～21:00
授業回数	おおむね13～15回の予定。	おおむね13～15回の予定。
授業内容	「読む・書く」を重点にした授業です。日本語能力試験に向けた授業を行います。少人数で、N5からの対応が可能です。	「聞く・話す」を重点にした授業です。
授業方法	対面授業です。状況によりオンライン授業になる場合もあります。	オンライン授業です。Skypeで対応します。
参加費	1,500円	1,500円

■場 所：宮川交流センター

（弘前市大字堅田2-2-6）

■お申込み・お問合せ先：弘前日本語クラブ

E-mail: hnc1900@yahoo.co.jp

Website: <http://hnc.g1.xrea.com/>

■学習者・ボランティアを随時募集しています。

ボランティアに関しては、

①日本語教師もしくは携わった経験のある方

②日本語教育に関心のある方

③オンライン授業に対応できるネット環境が整っている方を募集しています。

※昨今の状況に鑑み、当クラブでは新型コロナウイルス感染対策を行っています。授業の開催など急な予定変更もあります。ホームページなどで確認をお願いします。詳しいことにつきましては、事前にメールでご連絡のうえ、会場にお越しください。

●一般社団法人国際にほんご教育センター（International Japanese Education Center=IJEC）

【公開講座と日本語クラスのお知らせ】

オンラインIJEC夏期公開講座「日本語を教えてみよう」～人をつなぐ日本語～

開 催 日／8月21日（土）・8月28日（土）

開催時間／10:00～12:00（全2講座とも）

講座内容／日本語の文法と教え方（理論と実践）

親切・丁寧に教えます！

対 象／日本語指導に興味がある方・Zoom環境が整っている方

受講料／無料（定員は10名です）

申込み／8月14日（土）までをお願いします

「にほんごクラス」のお知らせ Japanese classes for foreigners

たいめん(Face to face)&オンライン(Zoom)です。ちいさいクラスで、たのしくべんきょうができます。

We have face to face & online classes. Studying Japanese is really fun!

Classes	Days and Hours (90min.)
初級コース (level: N5～N4)	Saturday 9:30～11:00
中級コース (level: N3)	Saturday 11:10～12:40 Tuesday 11:00～12:30 Thursday 10:30～12:00
上級コース (level: N2～N1)	Friday 10:00～11:30

●お問い合わせはIJECまで

For further information,

Phone 0172-38-7707

Email i.nihonngo.e.c@ijec.jp

<http://www.ijec.jp>

青森県内の国際交流活動団体の皆様からの情報をお待ちしております。

国際交流ラウンジ／International Lounge

〒030-0803

青森市安方1丁目1-40 青森県観光物産館アスパム2F

ASPAM BLDG. 2F, 1-1-40, Yasukata, Aomori-shi.

Post-Code:030-0803

TEL:017-718-5147 FAX:017-718-5148

E-mail: lounge_supporter@kokusai-koryu.jp

国際交流ラウンジカウンター／青森県外国人相談窓口

受付時間／10:00～17:00

休 日／毎週日曜日・月曜日年末年始（12月31日～1月3日）
アスパム休館日

事務室／Office

〒030-0803

青森市安方1丁目1-40 青森県観光物産館アスパム7F

ASPAM BLDG. 7F, 1-1-40, Yasukata, Aomori-shi.

Post-Code:030-0803

TEL:017-735-2221 FAX:017-735-2252

E-mail: info@kokusai-koryu.jp

Website: <http://www.kokusai-koryu.jp>

<https://www.facebook.com/aomori.kokusai.koryu>

<https://twitter.com/aomorikokusai>